

会員のひろば

題字：倉林 順一

◇田口有理さんの文章の題名は「・・・振り返る」よりも「未来につながる授業の試み」でしょう。

十年以上前に女性部の企画で行った松之山、そして日帰り温泉のナスティブュウ、懐かしいです。私はいま、その地域で月の半分を暮らし、六四歳の農民のお手伝いをしています。その方の家は茅葺きなので、稲刈りが終わってからは茅刈りをしています。三メートルほ

どに伸びた茅を大きな鎌で根元から刈っています。重労働。山の斜面に立てかけて、シートをかぶせ、雪の下で冬を越し、五月に雪が消えたら、干して屋根を葺くのです。

私は一・二月は雪掘りのため松之山にこもります。春を呼ぶ村に。

(十日町市・船橋聖一)

◇人々を人工の世界に引き入れるのではなく、この写真のような風景が好きです。ここは、アイスランドに滞在するたびに宿にしている

ハプナフィヨルツール市です。およそ二、四〇〇年前に流れた溶岩の上につくられた民家。自然物にあまり抵抗することなく建てられています。このことは、そのまま、教育にも反映されています。



(前橋市・野村 哲)

2014年10月19日撮影

◇最近の「育ちと学び」とても読み応えがあります。話題も多方面に渡り、様々なものが取り上げられているし、それぞれが掘り下げられているので面白いです。印象に残ったものをいくつか取り上げてみました。

・「多文化教育プログラムin群馬」

アジア共同体学校について初めて知りました。こんな学校が存在することがすごいです。なんとヴァイタリティ豊かな子ども達でしょう。どんな困難も乗り越えて行けそうです。彼らの群馬(日本)での六日間の滞在記、わくわくしながら読みました。自主性を尊重してあたたかく見守っている先生方の存在が大きいですね。朴さんの臨場感あふれる文章が素晴らしい。

・「改憲派と天皇・皇后」(まんが時評)

前々から天皇・皇后はリベラルな思想の持ち主だとは思っていましたが、これを読んでその思いを強くしました。「五日市憲法草案」を読んだ美智子皇后が深い感銘を覚えたという話は印象に残りました。皇后は物事の本質を捉えられる人です。天皇が現憲法を擁護しているために、改憲派が困っているのは面白いですね。

・「高崎経済大学附属高校坂本政道先生の授業」
—教師が一方的に教え込むのではなく、協同学習によって学ぶことって大切ですね。生徒が能力を身に付ける様子がよくわかりました。

・「仕事をはじめて考えていること」
—こういう企画もいいですね。こういう本音が書かれているものには、共感する人が沢山いるのではないのでしょうか。

(前橋市・三輪弘子)